

事業所名		公表日				
こども発達支援センター ココイク		R8年 5月 29日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	16		・今後も子どもとの信頼関係や、居場所づくりを大切にしていきます。 ・地域交流スペースや園庭、スヌーズレンルームなども活動に応じて使用しています。	各クラスの教室は法令基準以上のスペースを確保している。しかし、利用児童の日々の姿や、特性、個別訓練などによってスペースが窮屈に感じるときもあり、左記対応をとっている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	16		担任のみならず、専門スタッフもクラスの活動時間に介入し、集団の場での訓練に繋がっている。	・法令基準に基づいて配置していますが、日によって利用児童の数に差があるため、調整を図っていく。 ・法令基準以上の配置は行えているが、児の特性に合わせた支援を提供することや、急な職員の休みに対応することに対しては、余裕がなく関連業務に支障が出ることもあり、法人としても検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16		絵カードやタイムタイマー、日課表（視覚支援）の活用で、見通しを立てています。	・県外のセンターを参考に建設しており、明るく、見通しの立てやすい環境にあるが、より良い環境にできる余地もある。個々に適した支援が提供出来るよう、事業所内での情報共有を図っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	1	毎日、子供の登所前後に清掃し、室内・使用物品を消毒・除菌しています。	・教室には指示表のみ掲示。刺激を制限し主活動に集中し取り組めるようにしています。 ・活動に合わせた備品の充実も図っていきます。 ・テラス・壁紙など老朽化・劣化してきている箇所も見られてきているため、適宜、補修を行っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16		こども達の体調や感覚的な特性、集団への適応の状況に応じて、センサリールームや個室・園庭などを使用できる環境を準備しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16		・月に1回の職員会議・ケース会議に加え、日々の振り返りを行えるように調整しています。改善を専門職含め、全スタッフで検討しています。	・療育時間を調整し、日々の振り返り・目標共有の時間を設けています。今後も質の高い振り返りの時間になるよう改善を図っていきます。 ・月に1回、全スタッフでの会議を実施し、課題や目標の共有を行います。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16		年に一度の自己評価に加え、行事の際や、日々の療育に関するアンケートを実施し、スタッフにて共有しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16		普段のクラス振り返り、月に1回の職員会議、年に一度の自己評価アンケート、振り返り面談時に意見を聴取し、業務改善に繋がっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	16		・第三者委員によるセンターの事業状況の報告や、訪問を行っています。 ・苦情ボックスの設置を行いご意見を受け付けています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16		年間通じて全スタッフが研修に参加できるように推奨している。	・スタッフからの要望や、機関からの案内、研修計画等に基づいて研修を実施しています。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16		児童発達支援ガイドラインを参照し、支援プログラムを作成・公表しています。	年度の中途入職者への周知を現在よりも迅速に実施し、支援プログラムの共有を図る必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	16		利用開始時にはクラス担任・児発管に加え、心理士等も同席し面談を行い、ニーズの確認や、課題目標を設定しています。	・日々の児や保護者のニーズを反映させるように意識して関わっているものの、タイムリーな支援計画の作成までつながっていないこともある。 ・ニーズや課題に応じた支援計画を適宜作成していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16		クラス担任・児発管に加え、専門職も参加し、ニーズや強みを考慮した個別支援計画案・計画を作成しています。	

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16		児童発達支援計画に基づいた支援の実施に繋がるよう、日々の療育の振り返り職員間で実施している。	計画を意識した取り組みは行っていますが、新たな課題や変化に応じた対応が十分であるとは言えず、今後も質の向上を図る。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16		・スタッフの業務負担軽減のため、記録等にリンクできる支援ソフトを活用しています。 ・利用児の個別性に対応できるよう、心理士による検査結果の周知も図り対応しています。	・独自のアセスメントシートも活用しながら、利用児の状況把握に努めている。 ・標準化されたアセスメントツールの使用もおこなっているが、全利用児に適していない事もあり、全員に実施する難しさがあるものの、左記の対応により具体的にアセスメントを行えるようになってきている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16		日々の振り返りやケース会議にて全スタッフで一人一人への支援計画を検討している。また、地域（住民・関連機関）との相談対応や連携を図っている。	少しずつ、地域や家族への支援も行えてきていると考えます。今後も地域診断も含め、市との連携も密に図りより充実した支援を目指します。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16		・プログラムの作成においてはクラス担任に課せられていましたが、個々の能力を引き出せるよう、専門職も加えプログラムの設定を考えています。 ・専門職が主体となって開催する活動も増えてきており、支援内容が充実してきている。	具体的なプログラムの内容においても、振り返りの時間などを有効に活用し、専門職など多くの意見や要素を取り入れた活動を立案していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16		・発達年齢やクラスに応じて活動をそれぞれ取り決めている。 ・広い園庭や、日々の状態に沿って活動できる場を変え対応しています。 ・プログラムの作成においてはクラス担任に課せられていましたが、個々の能力を引き出せるよう、専門職も加えプログラムの設定を考えています。	必要に応じて戸外の活動など、地域への参加も踏まえた活動も取り入れ広がりを図っています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	16		個別での訓練時間の確保に加え、リハ・心理スタッフが集団活動の中で個別的に対応（評価・訓練）するなど、役割を分け支援しています。	・専門職が主体となって活動を運営する日も設定するなど、小集団での関りでニーズに応えていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	16		・全スタッフで始業開始時にミーティングを行い、日々の業務を確認しています。 ・また、各クラス毎のミーティングも実施し、当日利用児童への支援の確認、環境の配慮の確認も実施しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	2	日々の状況について、振り返りを行い、情報共有を行っています。	・必ずしも毎回は行えていないため、時間を確保していきます。 ・子供たちの降所後の時間を有効活用し、療育の準備や振り返り時間の確保に努めています。 ・継続開催し、振り返り自体の質の向上を図っていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16		日々の担当が活動内容や、活動の目標、児童の姿を毎日記録しています。	・今後も継続し、記録や支援の検証の質の向上を図っていきます。 ・多くのスタッフが質の高い記録を行えるように育成していくことが必要と考える。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16		半年に1回のモニタリングを必須としています。	・直接業務以外に日々の振り返りなどで支援の在り方を検討しています。しかし、支援計画の見直しへの時間の確保が厳しいこともある。課題となっている為、相談員との会議と重ね、個別モニタリングを実施していきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16		児発管と担当、必要に応じて専門職も参加しています。参加した者が記録し全スタッフに回覧しています。	

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16		・同一事業所内で親子通園事業や、事後教室を開催。関係機関とも連携を図っています。 ・適宜、自治体の関連部署、関連事業所等と連携を図っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16		会議の参加や、家族の了解を得て、日々の送迎の機会なども利用し、こども園等の状況を確認しています。 また、必要に応じて、「申し送りシート」、「サポートノートえいぶる」を作成し、移行がスムーズに進むよう配慮を行っている。	すでに就園している児童が多く、今後も会議等や足を運ぶなどして連携していきます。 徐々に連携の取りやすさも向上し、園さんからも相談のお声をかけて頂く機会も増えてきています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16		会議や家族を通じて共有しています。 また、必要に応じて、「申し送りシート」、「サポートノートえいぶる」を作成し、移行がスムーズに進むよう配慮を行っている。	昨年までに比べ改善してきているものの、連携している児童と、来ていない児童がいるため、今後は年間を通じて共有の場面を設けて行く。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	16		・事業所連絡会を開催し、地域の事業所間の課題やニーズの共有を行い、ケーススタディーや研修会・地域イベントなどを実施している。事業所間の連携の向上が図れており、今後も地域全体での支援の質の向上を図っていきます。 ・他市町村のセンターや自治体と情報交換会を行っており、センターとしての質の向上も図っています。	今後も、発達障害者支援センターなどからの助言を仰いだり、他の事業所に加え、他のセンターとも連携を図っていき、療育の質を高める事が出来るよう取り組んでいきます。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	16		・適宜、職員が外部研修を受講できる体制をとっており、施設内研修や伝達研修にてセンター全体での質の向上につなげている。 ・専門職や経験のあるスタッフがOJTを行っています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	16		児発管・主任が参加し、議事録を回覧し情報共有をしています。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	2	・地域の他事業所を招いて、絵本の読み聞かせ、スヌーズレンなど活動・居場所の提供・交流を実施しました。 ・法人内放課後等デイサービスの利用児と合同でお買い物ごっこなどを実施しました。	今後も継続して、他事業所との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会を作っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16		・送迎時にお伝えしたり、お便り帳を作成し、センターでの状況をお伝えしている。 また必要に応じて、電話連絡などでも家族へ情報を引き継ぐようにしています。 ・連絡帳の記載が保護者にとっては負担になる可能性も考慮し、メールなどの連絡手段を用いることもある。	家族と顔を合わせた中での情報伝達の機会は減っている為、連絡伝達手段の検討も継続していく。 ・療育見学やリハ見学なども利用し、普段の療育場面の見学・説明なども行えるよう対応します。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16		保護者対象・支援者対象のペアレントプログラムを案内し、実施している。	保護者への声掛けや張り紙にて情報を提供しているが周知の不徹底さが確認できた。 周知できる方法を検討していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16		契約時に児発管より説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16		適宜アセスメントを実施し、本人・ご家族のニーズをもとに支援内容を設定しています。	なるべくタイムリーに聞き取りを行うように心がけているが、保護者によっては情報共有の頻度や質に差がある状況。場の設定を適宜行い、意向の共有を図っていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	16		個別支援計画作成時に児発管より説明を行い、同意を得ている。また、半期に1度モニタリングの機会も設定している。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16		相談内容に応じたスタッフが対応しています。	頻度が少ないと感じられていた保護者もいらっしゃたため、適宜機会を設定していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16		クラス毎に開催しています。きょうだい支援・家族支援にも繋がると考え、きょうだいや祖父母への参加も呼びかけています。	ごきょうだいの支援にも繋がるよう、行事の検討も行っています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16		送迎時や、ご家族からの要望時は面談できる体制をとっています。	相談があった際には、児発管、担任、専門職にて共有し対応しています。また、保護者の状況をみながらこちらからお声掛けをさせて頂くこともあります。相談内容を、内容に応じて全体共有しています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	2	・ココイク便りを月に1回発行。 ・適宜、法人HPを更新している。	・日々の療育の姿も写真等に収めていますが、タイムリーに開示する事が難しいこともあるため、行事や家族会等でも開示をしています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16		事業所事務所内で管理。	画像の管理に課題あり。事業所内のパソコンのフォルダーに移行後し個人管理はしない事とする。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16		・言語聴覚士を中心にツール（マカトンサイン、絵カード、お話ブックなど）を統一している。	より、個別的な支援ツールの提供が出来るよう検討を行っていく。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	1	以前は、法人母体と一体型の祭りを開催（祭りの際にはセンターも開放）していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、実施できていない。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16		・隣接する法人の母体と連携し、防犯情報を共有し対策を図っています。 ・各種マニュアルを作成し、保護者にも閲覧して頂けるよう対応しています。 ・また、定期的に訓練を実施し、職員間で課題などを共有し、有事に備えています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16		定期的に研修・訓練を実施し、職員間で課題などを共有し、有事に備えています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16		・会議や面談の場で口頭や書面にて確認し、全体共有する。 ・関連機関とも、情報共有を図らせて頂き、リスクマネジメントを図っている。 ・安全計画に伴う研修・訓練を実施している。	・服薬内容の変更時だけでなく、必要なケースは定期的に内容を確認していくことも検討していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16		・会議や面談の場で口頭や書面にて確認し、全体共有する。 ・関連機関とも、情報共有を図らせて頂き、リスクマネジメントを図っている。 ・安全計画に伴う研修・訓練を実施している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16		・安全計画に伴う研修・訓練を実施し、スタッフ間の周知、質の向上を図っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16		契約時に児発管より説明している。個別支援計画の開示の際に、情報共有を行っている。	不十分な部分もあり、今後周知を図っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16		ヒヤリハットノートの作成、毎朝のミーティングや職員会議にてスタッフで共有し、事故の予防に努めている。また、事故の際には事故報告書を作成し、今後の対策を検討する。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16		・センター内で研修やアンケート調査を実施し、意識の向上を図った。 ・特性に沿った児との関わりや、支援に関する研修など、スタッフに参加を促がしている。	今後もアンケート調査や、虐待に特化した研修会などの実施も検討していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	16		契約書に記入されている項目である為、契約時に家族に説明しています。	